

中日職業教育の比較研究

— 中国（上海）職業技術学院と日本の専門学校の比較 —

M041996 王

琳

1. 研究目標

「職業教育」とは、職業人を育成するための知識・技能・態度を習得させるための教育である。

中国では、近年、急速に進行している市場経済への転換を背景に、中級技術者や熟練労働者を大量養成する必要性が高まっている。すなわち即戦力の技術者育成が急務となっているのである。

日本における職業教育は、専門高校、高等専修学校、専門学校、専修学校一般課程、企業内職業教育、職業教育センターなどが担っている。日本の専門学校は時代の変化に対応し、具体的な職業教育や実務教育を実施している。資格獲得のため徹底的な指導を行い、学生に即戦力を身につけさせることから、専門学校の卒業生は高い就職率を維持している。

日本の専門学校では「私立専門学校」が93%と圧倒的多数であり、「国公立学校」は全体の7%に過ぎない。このことから日本の高等教育機関における職業教育において、私立専門学校が果たしている役割の大きさが明らかである。本論文では、このような優れた日本の専門学校の実務職業教育のノウハウと、中国（上海）の職業教育機関と比較し、中日職業教育の強み、弱み、共通点、相違点などを明らかにすることを目的として研究を行った。また、本論文は中国の高等職業教育の今後のあり方を考察するうえで重要な示唆を与えることになるとともに、今後日本式専門学校の経営手法を中国へ移転するためのモデルともなることが期待される。

2. 中国における職業教育と職業学校

中国における職業教育と職業学校について、先行研究を行った。中国の職業教育のシステムは、初等職業教育、中等職業教育、高等職業教育の三つに分かれている。本論文の研究対象となるのは高等職業教育を実施している高等職業技術学院である。中国における職業教育の歴史では、主に中国の「改革・開放」以前の職業教育歴史と「改革・開放」以後の職業教育歴史を分析しまとめた。この章の最後では、中国における職業教育の現状や課題について考察した。中国の職業教育は急速な経済発展に対応しきれていない。社会や企業の職業教育への大きな期待に対して、職業教育自身に問題を抱えていることから対応できなくなっている。このような深刻な状況を改善し、職業教育を振興するため、中国政府はいろいろな政策を打ち出している。

3. 日本における職業教育と職業学校

日本における職業教育は、特に日本の職業教育の中で、重要な役割を果たしてきた専門学校について研究を行った。

これを基に、専門学校の現状や実態を明らかにした。専門学校経営の角度から、専修学校の経営環境を支える「国際化、情報化、サービス産業化、技術革新とその高度化、高齢化」などの社会の諸変化に即して、専門学校制度発足後の変化などを跡づけながら、その社会背景の変化に対応する専門学校経営の諸課題について、入学・学生募集、カリキュラムの再構築、教員の資質向上、雇用と就職問題、経営・財務状況、専門学校生の意識などを多面的に分析した。日本の学校教育に占める専門学校の意義・位置づけを分析する理論的枠組は必ずしも明確とはいえない。

4. 中日職業教育の比較研究

ここでは、それぞれ中日の職業教育学校に対して、質問調査票を送り、回答を求めた。さらに現地で中国上海にある高等職業技術学校へのヒアリング調査も行った。このような調査活動を経て手に入れたデータに基づいて、学校概要、外部環境、経営戦略、経営者、学校組織、カリキュラム、学生生活、教員状況、募集と進路などを中心に、中日職業教育の比較研究を行った。比較研究の結果、学歴と収入に対しては、日本より中国の学生が重視していること、職業教育学校の規模では、中国の職業学校が日本の職業学校を大きく上回っていること、また、教育機関への国の干渉では、日本の職業学校より中国の職業学校が大きく影響を受けていること、特に中国の私立職業学校がかなりの影響を受け、自主性が低いことなどが分った。ケーススタディとしては、中国の上海立達職業技術学院と日本の学校法人上野学園広島外語専門学校を取り上げて、それぞれの学校の特色、コースの設置、カリキュラムの編成など詳しく分析し、比較研究を行った。

5. 今後の研究について

中国と日本の職業教育学校に対する実態調査及び比較分析を行った結果、中国と日本の職業教育の強み弱み、共通点、相違点、実際の課題などを明確にすることができた。また、今後は、日本の専門学校の経営モデルを中国に移転することが可能か、特に、高度に洗練された日本の専門学校のマネジメントを生かして、中国で優れた職業教育を実践し、社会に対応できる優秀な技術労働者を養成できるか、その方策について研究を進めていくことにしている。